

(別紙様式3)

令和7年度あいちラーニング推進事業研究報告書【主管校】

学校番号 55

学校名 愛知県立一宮南高等学校

校長氏名 尾関 達哉

研究責任者職・氏名	教頭・犬飼 裕也	事務担当者職・氏名	事務長・藤嶋 信広
研究テーマ	『思考力・判断力・表現力等』を身に付けさせるための言語活動を取り入れた主体的・対話的で深い学びの推進		
本年度の研究目標	(1) 変化の激しい時代を生き抜く力を育むために、各教科で生徒に身に付けさせたい力を着実に育む。 (2) 教育活動の中で、効果的に言語活動を取り入れることにより、主体的・対話的で深い学びを推進する。		
研究の実施内容			
実施月日	内 容	備 考 (対象生徒等)	
5月8日 6月2日 ～6月6日 日	・第1回あいちラーニング委員会(毎週木曜日1限開催) ・言語活動週間(前期) ・言語活動週間アンケート	管理職・教科主任等 全職員	
10月21日 11月4日 ～11月7日 日	・現職研修(愛知淑徳大学・加藤智准教授) ・言語活動週間(後期)	全職員 全職員	
11月7日	・公開授業・研究協議会(愛知淑徳大学・加藤智准教授)	全職員 尾張地区 国語(梅森)地歴公民 (早川)数学(横井) 理科(服部)保健体育 (田中)英語(鷺津)	
11月19日	・研究成果合同発表会		
研究成果の評価及び普及・還元に関する実績			
1 本年度の研究取組について 令和5年度までにICTを活用した授業改善について取り組んでおり、令和6年度は「言語活動を取り入れた主体的・対話的で深い学びの推進」をテーマに、意識的に「言語活動」を取り入れた授業改善を図った。 今年度は昨年度の反省を踏まえ、言語活動を通して、何を目指していくのか共通認識を図ること、学力を犠牲にしないなどを考慮し、昨年度のテーマの冒頭に、『思考力・判断力・表現力等』を身に			

付けさせるための言語活動を付け加え、目的の共有を図った。

一宮南高等学校グランドデザイン2025（図1）に示された育成したい資質・能力を全職員が意識し、その中でも①思考力②発信力③創造力に特に焦点を当て、授業改善を図った。

年間行事計画の6月、10月の年2回の授業参観週間期間中に「言語活動週間」を実施し、教員及び生徒に授業での言語活動を意識させた。

6月の言語活動週間の教員アンケートをもとに、愛知淑徳大学・加藤智准教授による現職教育を実施し、ご助言いただいた。

11月に授業公開（国語、地歴公民、数学、理科、保健体育、英語）を行った。愛知淑徳大学・加藤智准教授からも参観後にご指導・ご助言いただいた。

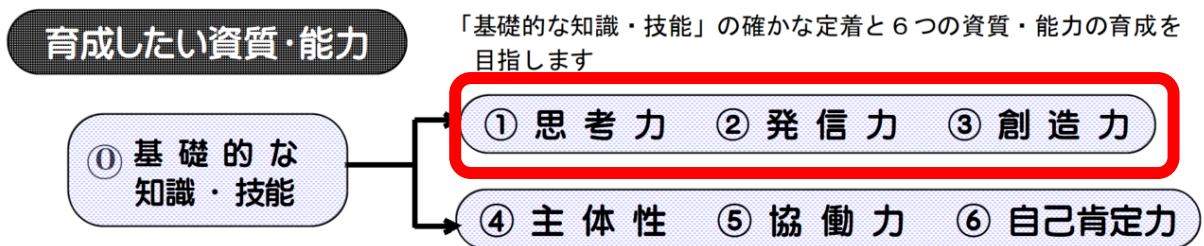


図1 一宮南高等学校グランドデザイン2025

2 あいちラーニング委員会

毎週木曜日の教科主任会で委員会を開催した。全職員へ周知を図るため、委員会の内容を教科会で共有してもらい、意見集約をして委員会に持ち寄る形式で進めた。

言語活動週間等のアンケート集約や授業公開に向けた意見交換を進めた。

公開授業における各授業の実施内容を各教科会で検討してもらい、進捗状況を確認した。

3 言語活動週間

年間行事計画の6月、10月の年2回の授業参観週間中の1週間に言語活動週間という期間を設け、教員にも生徒にも、いつも以上に言語活動の充実を図った授業への意識づけを行った。

言語活動週間後に教員にアンケートを取り、どのくらい言語活動を意識した授業が実施できているか、必要性や課題等を把握した。（図2～4）

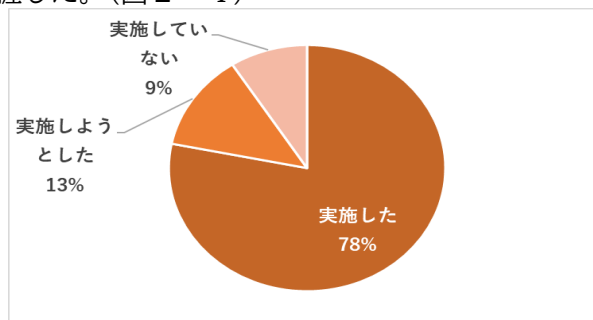


図2 言語活動を意識した授業を実施したか

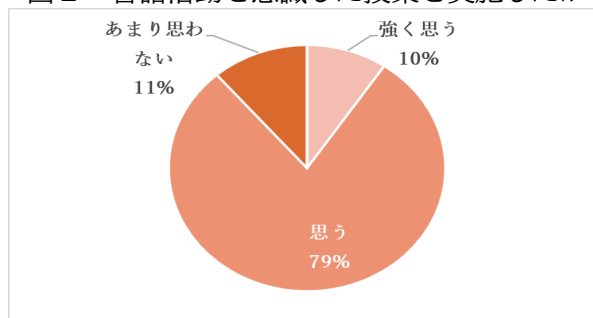


図3 言語活動は思考力・判断力・表現力の育成に有効だと思うか

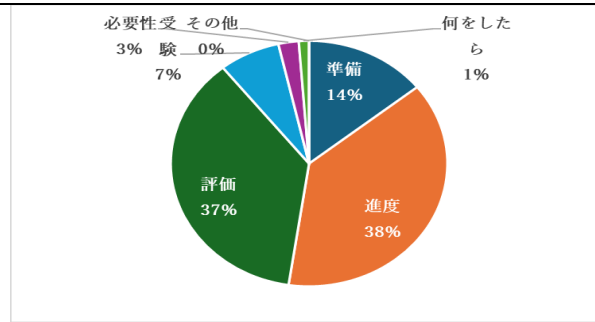


図4 言語活動を意識した授業の課題

4 参観者用ワークシート（愛（eye👁️👁️）のメッセージ）

今年度の言語活動週間から、参観者用ワークシート（図5）を導入し、参観者が主体的、対話的、深い学びの各観点に、より着目しながら参観することを図った。また、授業者にワークシートを渡すことで授業改善を図った。

言語活動週間後のアンケートでは、ワークシートを使用した参観者及び授業者の約9割が役に立ったと回答した。

参観者用ワークシート

～愛(eye👁️👁️)のメッセージ～
授業研究を授業者と共に新しい授業を創造していく場へ

日時	授業者	参観者
月 日 () 限	先生	先生
<p><良かった点> こういう点が良かった、感心した点、驚いた点をお書きください。 <生徒の姿を見ての協議につなげるために> ある生徒が、△△の場面で、□□と発言していた。ある生徒が、△△の場面で、□□と記入していた。 などより可能な限り、より具体的な記録を残し、授業者に伝えてください。</p>		
<p><代案を提案する> 気になった場面があれば、代案を提案してみてください。 ○○が気になりました。その原因は、△△にあると思います。私なら□□したらどうかと思います。</p>		
<p>参観者から見て、授業者が行っていた項目をチェックしてください</p> <p>主体的な学び</p> <p><input type="checkbox"/> 授業の導入で、まず生徒が興味を持ちそうなることを伝え、興味を持たせた上で本題に入ることができている。 <input type="checkbox"/> 今学んだことが、前に習ったこととどうつながるかや、全体の位置づけの中での部分にあたるかを、わかりやすく伝えられている。 <input type="checkbox"/> 授業の中でその時間のゴールや目的を明示し、生徒が遊んでしまうようなムダな時間がないようにしている。 <input type="checkbox"/> 「なぜ?」「知りたい!」と思わせるきっかけやネタが授業の中に含まれている。 <input type="checkbox"/> クラスの多数の生徒が「面白い」と思える内容を授業に取り入れられている。</p> <p>深い学び</p> <p><input type="checkbox"/> 答えを教えず、ヒントを与えるなどして、生徒が自分で答えを探していくために働きかけができています。 <input type="checkbox"/> 難しい課題は、ヒントを出すタイミングと内容を調整し、生徒が頑張って学んでいる。 <input type="checkbox"/> 高校内容の先にあるより深く広い世界の存在(一部でいいので)、生徒に伝えることができている。 <input type="checkbox"/> 思考プロセスを可視化し、「なぜそう考えたのか?—それだと良いのか/悪いのか」を生徒が納得・体感できるようにしている。 <input type="checkbox"/> 先生自身が面白いと思ったことを授業に取り入れて、教師自身が授業を楽しんでいる。</p> <p>参観者から見て、生徒の学習活動で到達できている項目をチェックしてください</p> <p>対話的な学び(思考力・判断力・表現力等を育成するための言語活動の充実に向けての取組)</p> <p><input type="checkbox"/> 事実を正確に理解し伝達することで、自身の考えを深め、また集団の考えを発展させることができている。 <input type="checkbox"/> 概念・法則・意図などを解釈し、情報を分析・評価し、論述したりすることで、自己の姿勢を確認することができる。 <input type="checkbox"/> 課題について、構想を立てて実践し、評価・改善を行う場面を取り入れることができている。 <input type="checkbox"/> 学習の成果をお互いに伝えあったり、助言し合うなどを行い、思考する場面を取り入れることができている。 <input type="checkbox"/> ICT 機器を用いて情報を共有し、効果的に思考を深めることができている。</p> <p>自由記述欄</p>		

図5 参観者用ワークシート

5 現職教育

言語活動週間のアンケート結果を踏まえて、愛知淑徳大学・加藤智准教授からご助言をいただいた。何を育成したいのかの明確化や手段ではなく、目的・目標の共有等の研究の方向性の整理から具体的な事例をもとにご指導いただいた。

6 公開授業

令和7年1月7日に公開授業および研究協議会を開催した。32名が参加した。当日は愛知淑徳大学・加藤智准教授にもお越しいただいた。

一宮南高等学校グランドデザインの育成したい資質・能力を α として、各授業者が言語活動を意識した授業を実施することで身に付けさせたい力を1つ設定した。生徒向けに事後アンケートを取り、生徒の受け取り方と比較した。

言語活動の分類、活動の見方（表1）を β とし、行う言語活動の共通認識を図った。

指導案の代わりとして、共通の様式で、授業者用ワークシート（図6）を使用した。主体的・対話的で深い学びに関する簡単な記載があり、授業者はその時間で実践したいことをチェックリストからチェックし、参観者が着目しやすいようにした。また授業者の負担軽減と、言語活動を行う上での共通認識を図った。

日時	月 日() 限	授業者	
学年・クラス	年 組 男子 名、女子 名	場所	
教科・科目			
使用教材	○主 ○副		
単元名			
単元の目標			
本時の目標			
言語活動を通して、育成したい資質・能力			
育成したい資質・能力 α	言語活動の分類、活動の見方 β	言語活動の特色	
	分類 活動		
本時の授業で見てもらいたいこと、実践したいこと			
主体的な学びによる深い学びについて		対話的な学びによる深い学びについて	
本時の授業で、主に実践を目指した項目にチェックしてください。			
主体的な学び			
<input type="checkbox"/> 授業の導入で、まず生徒が興味を持ちそうなところを伝え、興味を持たせた上で本題に入る。 <input type="checkbox"/> 今学んだことが、前に習ったこととどうつながるかや、全体の位置づけの中でどの部分にあたるかを、わかりやすく伝える。 <input type="checkbox"/> 授業の中でその時間のゴールや目的を明示し、生徒が避けてしまうようなムダな時間がないようにする。 <input type="checkbox"/> 「なぜ?」「知りたい!」と思わせるきっかけやネタが授業の中に入る。 <input type="checkbox"/> クラスの多数の生徒が「面白い」と思える内容を授業に取り入れる。			
深い学び			
<input type="checkbox"/> 答えを教えず、ヒントを与えるなどで、生徒が自分で答えを探していくための働きかけをする。 <input type="checkbox"/> 難しい課題は、ヒントを出すタイミングと内容を調整し、生徒が頑張って学ぶことができるようにする。 <input type="checkbox"/> 高校内容の先にあるより深く広い世界の存在を、その一部だけでも生徒に伝える。 <input type="checkbox"/> 思考プロセスを可視化し、「なぜそう考えたのか?—それで良いのか/悪いのか」を生徒が納得・体感できるようにする。 <input type="checkbox"/> 教師自身が面白いと思ったことを授業に取り入れて、教師自身が授業を楽しめるようにする。			
本授業で、生徒の学習活動に取り入れることを目指した項目にチェックしてください。			
対話的な学び（思考力・判断力・表現力等を育成するための言語活動の充実に向けての取組）			
<input type="checkbox"/> 事実を正確に理解し伝達することで、生徒自身の考えを深め、集団の考えを発展させる。 <input type="checkbox"/> 概念・法則・意図などを解釈し、情報を分析・評価し、論述することで、自己の意見を明確にさせる。 <input type="checkbox"/> 課題について、構想を立てて実践し、評価・改善を行う場面を取り入れる。 <input type="checkbox"/> 学習の成果をお互いに伝えて助言し合い、思考する場面を取り入れる。 <input type="checkbox"/> ICT機器を用いて情報を共有し、効果的に思考を深める。			

図6 授業者用ワークシート

<日程>

13:30~14:00 開会行事

14:15~15:05 公開授業【科目・学年】（教室）

国語 梅森 千晶 【論理国語・2年】（2年1組）

地歴公民 早川 佳輝 【公共・2年】（2年4組）

数学 横井 俊太 【数学I・1年】（1年5組）

理科 服部 義大 【生物基礎・1年】（1年1組）

保健体育 田中 裕基 【保健・1年】（1年4組）

英語 鷲津 実咲 【英語コミュニケーションI・1年】（1年8組）

15:20~15:50 講義及び助言（視聴覚室）

愛知淑徳大学教育学部教育学科准教授 加藤 智 氏

16:00~16:30 研究協議会・分科会

当日実施した公開授業

教科	科目 「单元名」	授業者	育成したい 資質能力 α	言語活動の分類 活動の見方 β		言語活動の特色
				分類	活動	
国語	論理国語 「資料を整理し、 テーマを吟味し よう／仮説を立 てて検証しよう」	梅森 千晶	①思考力	(1) イ	F	間違いを恐れず、自分の考えを発信することができる活動である。自分がアイデアを出すこと、同時に相手の考えを受け止めることがグループにとって有益であることを実感させたい。 口に出して表現することが苦手な生徒でも、端末に入力することで意見を表明することもできる。
地歴公民	公民 現代社会の諸課題 2 政治	早川 佳輝	①思考力	(1) イ (ii)	F	設定した課題について自分の意見を持ち、グループで話し合いながら、自分の考えをより深めていく。
数学	数学 I 第 4 章 図形と計量 第 2 節 三角形への応用	横井 俊太	②発信力	(1) イ (i)	E	解答に向けた方針の共有と言語化による理解
理科	生物基礎 ヒトのからだの調節	服部 義大	②発信力	(1) イ (ii)	F	概念を解釈し、自分の言葉で説明する力を養う。 また、互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる。
保健体育	保健 (1) 現代社会と健康 1 2 がんの予防と回復	田中 裕基	①思考力	(1) イ (i) (ii)	B F	がんの予防と回復について、運動・食事・睡眠の各側面から考え、グループで話し合いながら新たな気づきや考えを昇華させていく。
英語	英語コミュニケーション I Chapter 4 OriHime - A Vehicle of Your Heart	鷺津 実咲	②発信力	(1) ア (ii)	E	身近な先生の問題を自分ごととして考え、解決策を英語を用いて他者と協力して発信する。

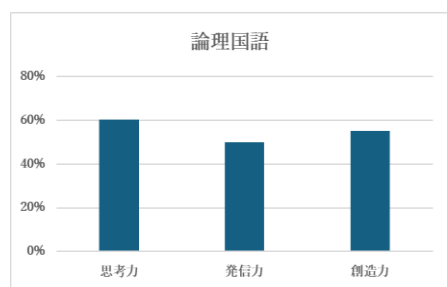
表1 言語活動の分類、活動の見方β

分類…言語の役割を踏まえ言語活動を分類したもの	活動…思考力・判断力・表現力等を育むための学習活動
(1) 知的活動（論理や思考）に関すること ア 事実等を正確に理解し、他者に的確に分かりやすく伝えること (i) 事実を正確に理解すること (ii) 他者に的確に分かりやすく伝えること イ 事実等を解釈し、説明するとともに、自分の考えをもつこと、さらに互いの考えを伝え合うことで、自分の考えや集団の考えを発展させること (i) 事実等を解釈し、説明することにより自分の考えを深めること (ii) 考えを伝え合うことで、自分の考えや集団の考えを発展させること (2) コミュニケーションや感性・情緒に関すること ア 互いの存在について理解を深め、尊重すること イ 感じたことを言葉にしたり、それらの言葉を互いに伝え合ったりすること	A 体験から感じ取ったことを表現する B 事実を正確に理解し伝達する C 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする D 情報を分析・評価し、論述する E 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する F 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる

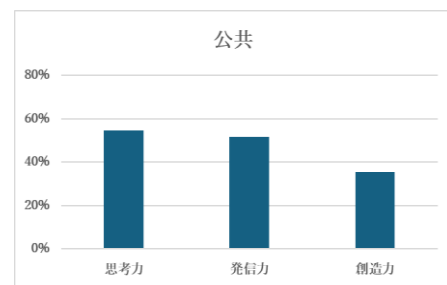
表2 生徒向けのアンケート結果

「とても身についた」と回答した生徒の割合

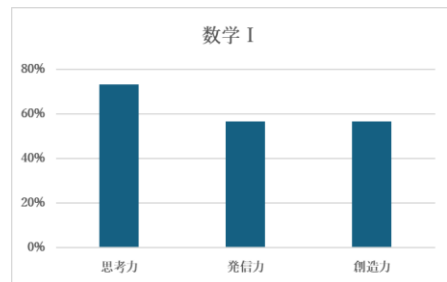
論理国語	思考力	発信力	創造力
とても身についた	61%	50%	55%
やや身についた	37%	45%	45%
あまり身につけていない	2%	5%	0%
まったく身につけていない	0%	0%	0%



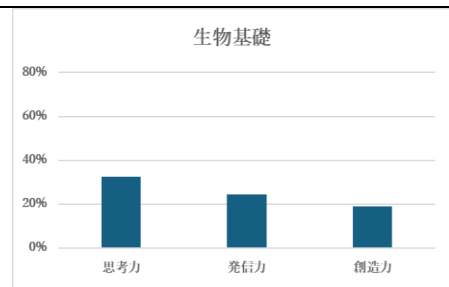
公共	思考力	発信力	創造力
とても身についた	52%	49%	33%
やや身についた	45%	39%	58%
あまり身につけていない	3%	12%	9%
まったく身につけていない	0%	0%	0%



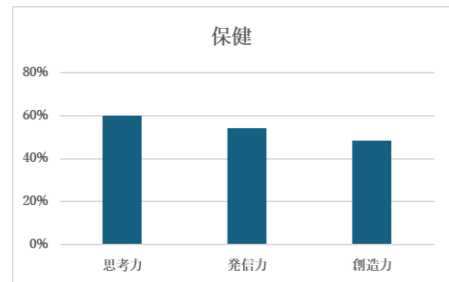
数学 I	思考力	発信力	創造力
とても身についた	55%	43%	43%
やや身についた	40%	45%	52%
あまり身につけていない	5%	10%	5%
まったく身につけていない	0%	2%	0%



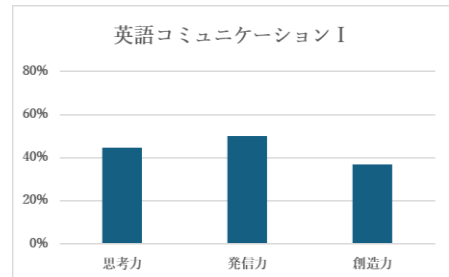
生物基礎	思考力	発信力	創造力
とても身についた	32%	24%	19%
やや身についた	68%	60%	68%
あまり身につけていない	0%	16%	13%
まったく身につけていない	0%	0%	0%



保健	思考力	発信力	創造力
とても身についた	60%	54%	49%
やや身についた	40%	40%	49%
あまり身につけていない	0%	6%	3%
まったく身につけていない	0%	0%	0%



英語	思考力	発信力	創造力
とても身についた	45%	50%	37%
やや身についた	50%	47%	61%
あまり身につけていない	5%	3%	3%
まったく身につけていない	0%	0%	0%



7 成果と課題

昨年度から継続して言語活動を研究テーマとしたことや、今年度新たに参観者用ワークシートや授業者用ワークシートを取り入れたことで、多くの教員が授業改善に取り組むことができた。

昨年度の公開授業での生徒アンケート結果(表2)では、教員の育成したい資質・能力と生徒が身についたと思う資質・能力が一致した科目は4科目中2科目だった。それに対し、今年度は6科目中5科目に向上した。この要因としては、研究テーマで『思考力・判断力・表現力等』に重きを置くことを共通認識としてもらったことや、共通様式のワークシートを用いることで目的の共有ができたことなどが考えられる。

表3のように、昨年度と同じ内容のアンケート結果と比較すると、思考力、発信力、創造力のどの項目においても、とても身についた、やや身についたと回答した生徒の合計割合が増加した。

言語活動を意識した授業を行うことで、グランドデザインに示されている育成したい資質・能力が身に付きつつあると考えられる。

表3 アンケート結果の比較

		思考力		発信力		創造力	
今年度	とても身についた	50.7%	97.3%	44.8%	91.0%	39.4%	94.6%
	やや身についた	46.6%		46.2%		55.2%	
昨年度	とても身についた	55.0%	94.6%	34.9%	88.6%	45.0%	92.6%
	やや身についた	39.6%		53.7%		47.7%	

昨年度に引き続き、言語活動を意識した授業を行う上で、授業進度の遅れや評価の方法について不安を感じる教員が一定数いるため、授業の展開方法について引き続き検討していきたい。

今回はグランドデザインの①～③に絞ることで、一定の成果は示されたが、他の資質・能力についても育成していくことができるように、継続して授業改善を行っていきたい。